

## 阪和地域の文化資源に関する学際的研究

### 【代表者】

菅原真弓 大阪市立大学 文学研究科 教授

### 【共同研究者】

中島敦司 和歌山大学 システム工学部 教授

村田隆志 大阪国際大学 国際教養学部 准教授

### 【研究概要（申請書より抜粋）】

「文化資源」という言葉が示す範疇は限りなく広い。しばしば用いられる「文化財」や「文化遺産」が、既成の価値観に基づく「権威」によってその価値を担保されるのに対して、「文化資源」はそれらに含まれる事物も無論あるが、現代に生きる私たちが「資源」としてこれを守っていこうとするモノ全てがそれ（文化資源）になりうる。そしてその判断に用いられる価値観は、必ずしも既成のそれではない。

本研究は大阪から和歌山地域（紀伊半島という観点からは奈良県も含みうる）に遺る文化資源の魅力と問題点を、学際的な研究によって明らかにする試みである。大阪（大坂）は古くから経済の中心地域であったため、文化的営為も蓄積され、本研究の視点に基づく「文化資源」も数多く遺る。しかし、研究の蓄積は大阪の北部地域に偏しており、本学の立地する阪和地域の文化資源に関する研究はほとんど見られないのが現状である。そこで本研究では、一つに近世近代の「大阪（大坂）」を描いた絵画作品についての研究を実施する。また阪和地域を活躍の場とした画家の生涯と作品についての検討を行う。さらに紀伊半島の自然景観（植物や遺構などをも含む）の状況と保護についての研究をも加えていく。

本研究では研究の取りまとめと「大阪（大坂）」を描いた作品に関する検討、研究を菅原が、紀伊半島に関する景観研究中島が、画家が生きた場としての阪和地域に関する研究を村田が担当する。研究成果の公開方法としては、共同研究メンバーに加えて、阪和地域に遺る文化資源の歴史学的、文学的、民俗学的研究を行う研究者などを招き、公開成果報告会の実施を予定する。